内海ITU事務総局長
ジュネーブ便り

（2002年3～4月）

◎内海総局長から

世界電気通信開発会議、理事会、世界情報社会サミットの第1回準備会合と、大変忙しいスケジュールになっています。

アメリカでのテロ事件と情報通信産業の不況で、マスコミ報道では、情報通信への関心が急速に薄れているように見えますが、私の周辺では、逆に大変深まりを見せています。特に、政治的リーダーや、外交官の間での関心が急速に深まっています。私を訪問する人の数や、レベルが、大きく変化し、ITUが、いよいよ表舞台に出てきたとの実感をもつ毎日です。

日本での、アジア地域のサミット準備地域会合の準備が順調に進むことを願っています。

3月13日　サミットハイレベル組織委員会HLSOC（事務レベル会合）（ジュネーブ）

2003年および2005年に開催する世界情報社会サミット（WSIS）の準備を全体的に監督するために、ユネスコ、世銀、WIPOなどの各国際機関の長で構成されたサミットハイレベル組織委員会(HLSOC)が設置されています。今回の事務レベル会合では、ITUからサミットの準備状況を説明するとともに、各国際機関からはサミットで取り上げるべき議題などについて意見が出されました。ITU以外の各国際機関でも、ICT関連の活動が盛んに行われているところであり、サミットに向けて各機関の活動が集約されるよう、今後とも調整を続けていくこととなりました。

3月14日　Mr.PeissikフランスWSIS担当特別大使との会談（ジュネーブ）

フランスのMr.Peissik、WSIS担当特別大使と会談を行いました。WSISでは、電気通信、情報技術のみならず経済、社会、文化、教育など広範囲のテーマを議論することから、フランス国内の関係団体の調整ならびに対外国との交渉担当として、WSIS担当特別大使が改めて任命されたものと認識しています。カナダ、アメリカなど他国においてもWSISに対応する国内体制が設置されるなど、各国の関心が高まっています。

3月18～27日　第3回ITU世界電気通信開発会議（イスタンブール、トルコ）

4年に1度開催するITU世界電気通信開発会議（WTDC）をイスタンブールで開催しました。152カ国から1,150名の出席者があり、また、40数名の大臣クラスの出席もあり、デジタル・デバイドなど開発に関する各国の関心の高さが表れた会議となりました。会議では、今後4年間の電気通信開発に関するITUの活動方針をまとめたイスタンブール宣言ならびに行動計画がまとめられました。

今後、イスタンブール行動計画に基づいてITUでは、①規制改革に関する情報共有、②技術および電気通信ネットワークの開発、③ICTによる新たなサービスの開発、④料金やコストなどの経済および財政事項、⑤人材開発、⑥後発開発途上国（LDC）への特別施策を中心に、各国の電気通信開発支援に取り組んでいきます。

4月2～5日　モロッコ訪問（カサブランカ、モロッコ）

モロッコで電気通信の展示会およびフォーラム、テレコンプ・モロッコ（Telecomp Maroc (www.telecomp-maroc.com)）が開催され、モロッコの大臣から度重なる出席要請もあったことから、オープニングセレモニーでスピーチをいたしました。3万5,000人もの入場者があり、大変盛況な展示会でした。WTDCの直後ということで日程的にも体力的にも厳しかったのですが、モロッコ政府のICTにかける意気込みが実感でき、また今年秋にマラケシュで開催するITU全権委員会議の準備状況についても意見交換ができる良い機会となりました。

4月3日　コナレ・マリ大統領のITU訪問（ジュネーブ）

マリのコナレ大統領がITUを訪問されました。コナレ大統領は、アフリカ統一機構（OAU）が推進するアフリカ諸国の情報化プロジェクトである“E-Africa”プロジェクトの議長も務めており、国際的な信頼も厚いアフリカの有力なリーダーです。コナレ大統領は、在ジュネーブのアフリカ諸国大使を欧州国連本部に集めて“E-Africa”の取り組みについて講演した後にITUを訪問されました。ITUでは、アフリカにおけるICT関連プロジェクトの動向、および、5月末にマリ（バマコ）で開催するWSIS関連アフリカ会合の準備状況について意見交換を行うとともに、マリとITUとの間でインターネット普及に関する覚書の署名を行いました。

各国において、ICT関連の国家プロジェクトが推進されるにつれて、各国の首脳レベルはITUの役割に関心を示しているようです。

アルファ・オマール・コナレ、マリ共和国大統領のITU表敬訪問